

— それでは我々は3日に会おう。エレナにもよろしく伝えてくれ。
— 少し難しいな。私達は別れて3年になる。
— 何も知らなかった。失礼をした。



ペペは内線でスシを呼んだ。

— 君、すぐに来れる？

— ボスの言うままです。

ちょっと経ってスシはペペの書斎にいた。彼女のメモ帳、ボールペン、手帳と共に、彼女の仕事のための用意だ。

— スシ、君の旅行鞆を用意して、最もエレガントなドレスも用意してね、君が持っている中の。私達は何日がマラベジャで過ごすのだ。その上、クラウディオ エルミタスの誕生パーティーに招待されているのだ。

— え、私も連れて行ってもらえるのですか、ボス？

— 君は何を望んでいるの？ロメラレスと一緒に行けと言うのか？

スシは微笑んだ。彼女は想像が出来なかった。ロメラレスのパーティーでのタキシード姿、素敵な女性たちとの踊り、彼はもっと背が高い必要があった、

— 私達はもっとかっこよくしなくてはなりませんね、ボス。

— 私は例えば、タキシード借りなくてはならないだろう、そして何かエレガントなスーツ一式を買わなくてはならないだろう。何故なら今私が持っている物では...

— あゝ、ボス、なんと満足な、私が好きなこれらのパーティーは、いつも“Lora” (Revista del corazon) に載っています。

— 君と私は同じだよ。私はこのタイプのパーティーは耐えられない。